



イマジン  
ロータリー

高岡 北  
ロータリークラブ  
TAKAOKA-NORTH  
ROTARY CLUB



例会日・毎週月曜日 12:30～13:30	創立・1980年5月19日	会長 五十嵐 豊
例会場・ホテルニューオータニ高岡	認証・1980年6月12日	幹事 海下 巧
	国内創立順位・1489	公共イメージ委員長 山辺 知代

## 第1882回 例会 2月 27日(月)

◇点 鐘 五十嵐会長

◇ソング “我等の生業”

◇ゲスト並びにビジターの紹介

ゲスト：NPO アレッセ高岡 理事長 青木 由香 様  
米山記念奨学生 イクバル・トゥーバ さん

◇会長挨拶並びに報告

皆さんこんにちは。コロナもだいぶ発表の人数が少なくなり、2～300人で推移しています。インフルエンザも少しずつ数が増えています。

1年経ちましたが、ウクライナの戦争は、泥沼化して終わることがありません。これから先、ウクライナの人々がどうなるのか大変危惧しています。助けられることがあれば、我々も皆で協力し助けたいと思います。

今日は、アレッセ高岡の青木由香さんの卓話があります。また、宜しくお願いいたします。

◇トゥーバさんに2月分の奨学金をお渡しする

皆さんこんにちは。米山記念奨学金をいただきありがとうございます。土曜日に地区米山記念奨学会の集まりに参加してきました。その前まで、パキスタンに帰っていました。今日は、皆さんにお土産を持ってきたので、食べてください。



◇ニコニコBOX 報告

五十嵐会長：本日の卓話「多様性を地域の力に～アレッセ高岡の挑戦～」アレッセ高岡 代表 青木 由香 様、宜しくお願いいたします

野尻信晴君：2歳の孫の誕生日に写真を撮りました。この子が20歳になる頃、私はいませんネ。

宮田義弘君：広告の件ですが、6月10日ごろまでお待ちください！

【今年度ニコBOX累計額 453,000円】

◇幹事報告

- 1) 次回3月6日(月)例会は、高岡向陵学校インターアクトクラブに活動報告をしていただきます。
- 2) 配布：①4/3(月)高岡西ロータリークラブとの合同懇親例会のご案内
- 3) 回覧：①会報NO.26

◇出席報告 出席者 19名 メイクアップ済 0名

名誉会員	会員数	本日の出席率	2/13例会 修正出席率
1名	35名	73.08 %	64.0 %

第32回高岡地区5RC  
親睦ゴルフ大会のご案内  
日時：4月1日(土)10時スタート  
場所：高岡カントリー倶楽部  
頼成コース  
ホスト：高岡西RC

高岡西RC・高岡北RC合同懇親例会のご案内  
日時：4月3日(月)18:30～  
場所：ホテルニューオータニ高岡4階

## ◇本日のプログラム (担当：国際奉仕)

卓話「多様性を地域の力に～アレッセ高岡の挑戦～」

NPO アレッセ高岡 理事長 青木 由香 様



アレッセ高岡へ高岡北ロータリークラブから支援を受けて、6年目となります。ありがとうございます。その間に受入交換留学生のアイザック君の学習支援などを行いましたが、コロナ禍で思うような活動が出来ませんでした。早く収束し、従来通りの活動ができるように願っております。

アレッセ高岡という組織は2つのミッションを掲げて活動しています。一つは多様な地域の形成主体を育成するという、もう一つは多様性を地域の力とするための啓発活動を行うということです。これらのミッションの下、学習支援事業、情報支援事業、市民性教育事業の大きく3つの事業を展開しています。

活動の背景として、高岡市の外国人住民の増加と定住化、貧困のリスクの高さがあります。少子化が進む一方で、外国人児童生徒は増加していますが、各地に「散在」していることから、子どもたちの教育課題は潜在化し、支援システムの不備・脆弱さにつながっています。結果、子どもたちの進学やキャリア形成は非常に厳しい状況にあり、第二世代への負の連鎖も生じています。アレッセ高岡は、2010年より学習支援教室を運営してきましたが、外国ルーツの子どもが持つ価値を正當に評価できない日本の教育や評価のシステムを（消極的ながらも）肯定したままの「外国人支援」では、彼らの本当の力を伸ばすことはできないと思うようになりました。そこから脱却するために、2020年よりスタートさせたのが「市民性教育」事業です。この市民性教育は外国ルーツの子どもだけでなく、大人も日本人も対象としており、地域に住む全ての人々が「他者と共に地域を形成する主体となる」ためのプロジェクトです。これまで、「違い」や「ふるさと」をテーマとした勉強会やディスカッション、年齢や性や立場も超えて互いの人生を見直す「キャリアデザイン」のワークショップ、批判的思考を養うためのセミナー、防災等地域課題の解決を目指した訓練、SDGsやアートを切り口につながり合うフォーラムや展示会、フェスティバルなど、さまざまな取り組みを実施してきました。これらの各種イベントは外国ルーツの若者たちが主体となって企画・運営するものもあり、イベントを通して彼らの力や可能性を多くの人に知ってもらうことができました。

「支援する日本人→支援される外国ルーツの子ども」といった一方的な関係を脱し、互いに互いの良さを認め合い、支え合う、新たな関係を築いているとして、今年度（2023年度）アレッセ高岡は国際交流基金の「地球市民賞」を受賞することができました。これは、アレッセを信じ、私たちの地道な取り組みや挑戦を支え続けてくださった高岡北ロータリークラブ様の存在がなければ為しえなかったことです。心から感謝申し上げます。しかしながら、アレッセが理想とする社会の実現にはまだまだ道半ばです。国籍や人種、文化、宗教、言語等の違いを超えて、全ての子どもたちがその可能性を存分に開花させていってくれること、そして、彼らにとって誇れる「ふるさと」として選ばれる高岡であるべく、アレッセ高岡の活動を今後も進めていきたいと思っております。

